

Course number		G-LAS14 80002 LJ44			
Course title (and course title in English)	ビジネスエシックス Business Ethics		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Management Professor,TOKUGA YOSHIHIRO Graduate School of Management Practicing Professor, Professional Graduate School,KODA HIROTO Graduate School of Management Specially Appointed Professor,HIKINO TAKASHI	
Group	Interdisciplinary Graduate Courses		Field(Classification)	Career Development	
Language of instruction	Japanese		Old group		Number of credits 2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters 2024・First semester
Days and periods	Fri.5	Target year	Graduate students		Eligible students For all majors
(Students of Graduate School of Management, Graduate School of Economics cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)					
[Overview and purpose of the course]					
<p>現代経済における企業への社会的要請の重要な焦点として、高いモラルを維持する経営行動が、企業全体についてだけでなく、個別の役員と従業員についても求められている。この企業活動の倫理性という問題は、そもそも道徳哲学を講じていたアダム・スミスが経済学を確立し、『論語と算盤』が「日本資本主義の父」と称される渋澤栄一によって著されたように、近代の経済社会をつうじて重要な課題として広く認識されてきたものである。しかし、現代社会における企業行動の現実を概観すれば、21世紀初頭のアメリカにおける「エンロン事件」に代表されるスキャンダルや、近年の日本において頻発する企業が引き起こす違法行為に見られるように、この課題が依然として解決が出来ていないことが明白となる。</p> <p>この講義では、このような企業行動の倫理性の一般的課題を、まず研究者がどのように体系的に把握しているのかという理論的なアプローチを主に講義コーディネーターが概説し、そのうえでこの課題が現実にもどのように取り組まれているかを実際の日本の企業において実践されている実務家の方々に解説していただく。取り上げる企業は、産業企業、金融機関、投資ファンド、会計監査法人等の広い範囲とすることによって、「ビジネスエシックス」、「コンプライアンス」、「コーポレートガバナンス」および「CSR」、「SGDs」といった広義の倫理性の課題について、異なる業界と個別の企業によって多様な立場と実態があることを受講生に伝えたい。</p> <p>このような研究者と実務家両方による平易な解説を通じて、大学院における専門分野には関係なく、受講生が将来従業員として、技術者として、そして役員として、モラルに満ちた行動を個人として取るだけでなく、関係する事業体全体が倫理的な経営行動を維持するについて、先導的役割を担う際の一助となることを、この授業の最終目的とする。</p>					
[Course objectives]					
<p>「ビジネスエシックス」、「コンプライアンス」、「コーポレートガバナンス」および「CSR」、「SDGs」といった広義の企業行動の倫理性の課題が、特に日本の企業あるいは他の事業体においてどのように取り組まれてきたか、どのような現状なのか、そしてどのような課題に直面しているのかについて、受講生が体系的、実践的に理解することによって、将来自らが経済行動において直面するモラルディレンマを解決する思考手段を学習することを到達目標とする。授業ごとに課す小レポートと最終試験とによって、個別のトピックと全体としてのビジネスエシックスの体系的な理解を自ら試す機会が与えられる。</p>					
[Course schedule and contents)]					
第1回 4月10日 講義「ビジネスエシックスへの導入」徳賀・幸田・曳野					
第2回 17日 ビジネスエシックスと企業統治 大企業経営者					
Continue to ビジネスエシックス(2)					

ビジネスエシックス(2)

第3回 24日 ビジネスエシックスのあり方 弁護士
第4回 5月1日 資本市場とビジネスエシックス 幸田
第5回 8日 企業の倫理と社会の持続的発展 大学教授
第6回 15日 コーポレートガバナンスと会計・内部監査 監査法人
第7回 22日 企業統治の現実： ENRON事件とは何だったのか？ 曳野
第8回 29日 会計不正の構造と日本の会計・監査規制制度 徳賀
第9回 6月5日 不透明な経済・社会状況と企業統治の視点 コンサルティング会社 パートナー
第10回 12日 企業文化とビジネスエシックス 大企業経営者
第11回 19日 SDGsとビジネスエシックス 大企業経営者
第12回 26日 会計監査と業務監査 監査法人
第13回 7月3日 デジタル社会とビジネスエシックス IT会社経営者
第14回 17日 コーポレートガバナンス改革 大学教授
第15回 31日 課題・フィードバック 徳賀・幸田・曳野

[Course requirements]

特に具体的な履修要件は課さないが、現実の企業と社会との関係についての旺盛な関心を求める。

[Evaluation methods and policy]

講義内容についてのレポート（講義ごとに、A4で1枚程度のもの）を授業直後に提出（50%）；
最終試験の成績（50%）

[Textbooks]

特に特定の教科書は用いない。資料は、KULASISにアップする。

[References, etc.]

（References, etc.）

参考図書は、各講義において紹介する。

[Study outside of class (preparation and review)]

授業で取り上げるテーマとなるトピック、国、業界、企業について、予習、復習をすること。

[Other information (office hours, etc.)]

企業行動と倫理的規範に関心のある学生であれば、所属研究科は問わない。また、各授業の終了後にオフィス・アワーを設ける（その他の時間帯についてはメールで問い合わせること）。